宇野港振興へ活発意見

地元の3高生徒 独創的アイデアも

宇野港の振興について地元の高校生に考えてもらう「グループディスカッション」が27日、築港の産業振興ビルであった。生徒たちは、港周辺にコンピューターゲームの腕前を競う「eスポーツ」の拠点をつくり、にぎわい創出を図るなど独創的なアイデアを出し合った。

海運、フェリー会社など市内外の40社余りで組織する宇野港振興協会が初めて開き、光南、玉野、玉野商工の3高から計13人が参加した。港に人を呼び込んでフェリーの利用客増を図る方策を学校別に話し合い、出てきたアイデアを発表した。

光南高はeスポーツの拠点づくりを進めることを提案し「直島にではないか」と訴えた。渡る外国人を含め、港玉野高は情報発信を強を訪れる人の滞在時間化する必要性を強調が長くなり、さらに人し、写真共有アプリ・が集まるようになるのインスタグラムに写真を投稿してもらえるようなスポットを設けることを発案。玉野商工高はフェリーを利用すればポイントなどの特典がたまり、築港商店街で使用可能な商品券と交換できるアイデアを披露した。

玉野商工高3年宮野香月さん(17)は「議論を通じて港を活性化できる可能性はまだまだあると感じた」と話した。生徒たちはディスカッションに先立ち、物流拠点である宇野港田井地区も見学し、宇野港振興協会はディスカッションでの意見を基に要望書をまとめ、県に提出する方針。（民直弘）

宇野港の振興に向け、活発に議論を交わす高校生ら

（C）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。